

第6回 高知港海岸景観・利便性等検討会

施設のデザイン及び配置検討

令和2年2月21日

高知県土木部港湾・海岸課
国土交通省四国地方整備局

3-1. 施設の全体コンセプト及び検討項目

1.全体コンセプト

自然景観や海岸利用、堤防としての役割が相互に調和した施設をデザインする。

景観

＜構造物に変化を与え、周辺との調和を図る。＞
堤防のコンクリート表面や法線等に変化をもたせるなど工夫を施すことで、景観の連続性や圧迫感の軽減を図る。

利用

＜既存利用を妨げずに新たな魅力を創出する。＞
海水浴場や散策等の既存の利用性を確保した上で、南側の正面玄関としての拠点整備など、新たな魅力を創出する。

防災

＜構造的安定を確保した上で避難誘導を図る。＞
施設の構造的な安全性や施工性に配慮しつつ、デザインを検討するとともに、適切に避難誘導が図れるよう動線や配置を検討する。

維持管理

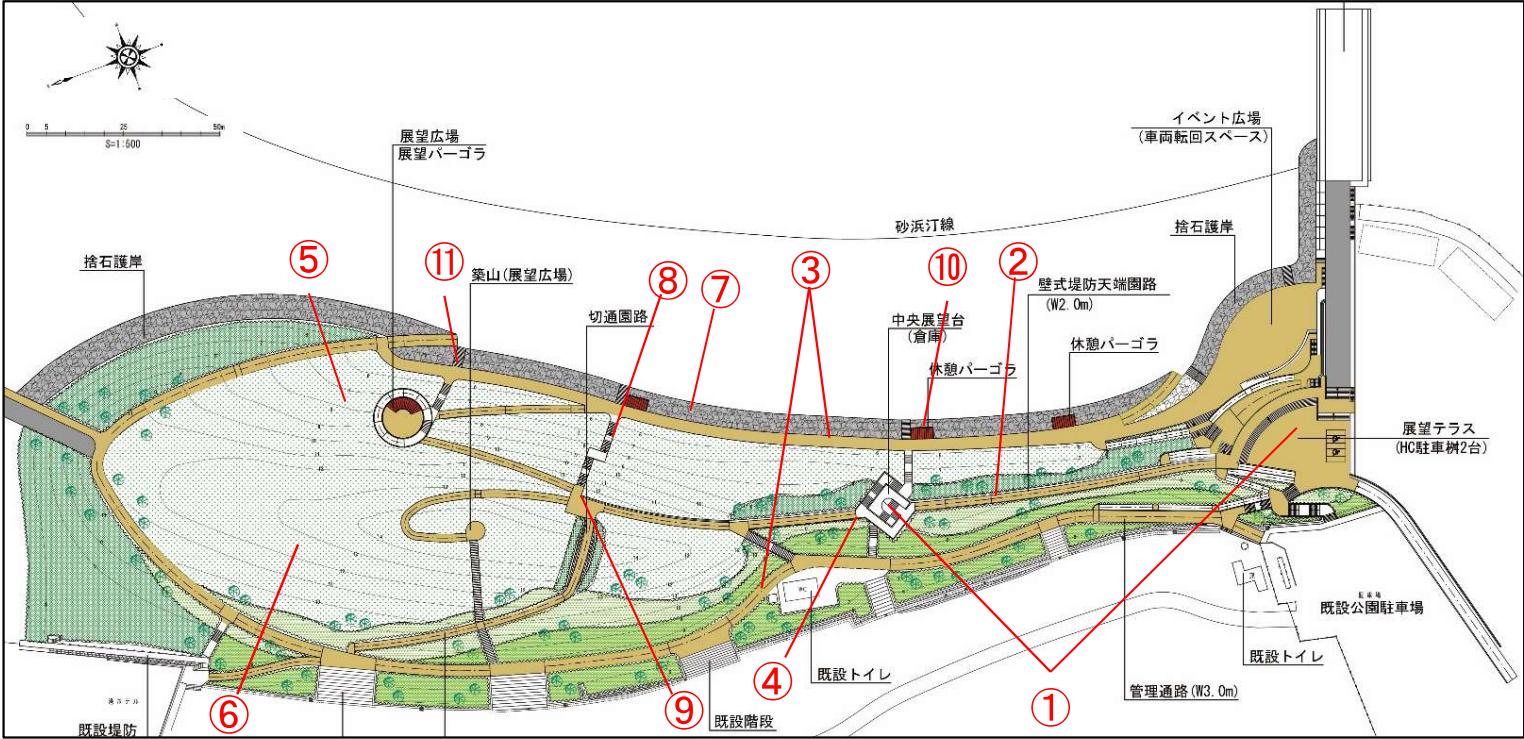
＜海浜沿いの構造物として適切な維持管理を図る。＞
照明や植栽などを工夫することにより、維持管理作業の低減を図り、地域の方々と連携した管理をしやすい施設を目指す。

2.本整備計画での提案

第5回景観・利便性等検討会で出された意見を踏まえ、本検討会においては施設のデザイン及び配置について以下に示す1の提案を行う。

提案

- ①拠点施設
- ②壁面デザイン
- ③園路舗装
- ④手摺り
- ⑤植栽
- ⑥盛土造成
- ⑦捨石護岸
- ⑧照明
- ⑨避難誘導サイン
- ⑩その他施設
- ⑪雨水排水



3-2. 施設のデザイン及び配置検討(①拠点施設)

1. 拠点施設

①南端部展望テラス

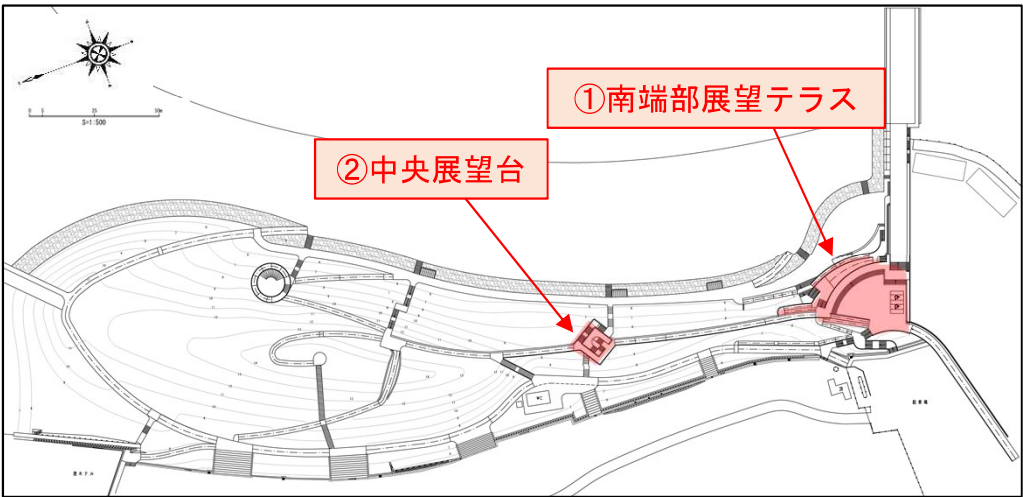
南端部展望テラスについて、津波防波堤の構造を踏まえ下図のとおりデザインを検討した。

<検討の条件・考え方>

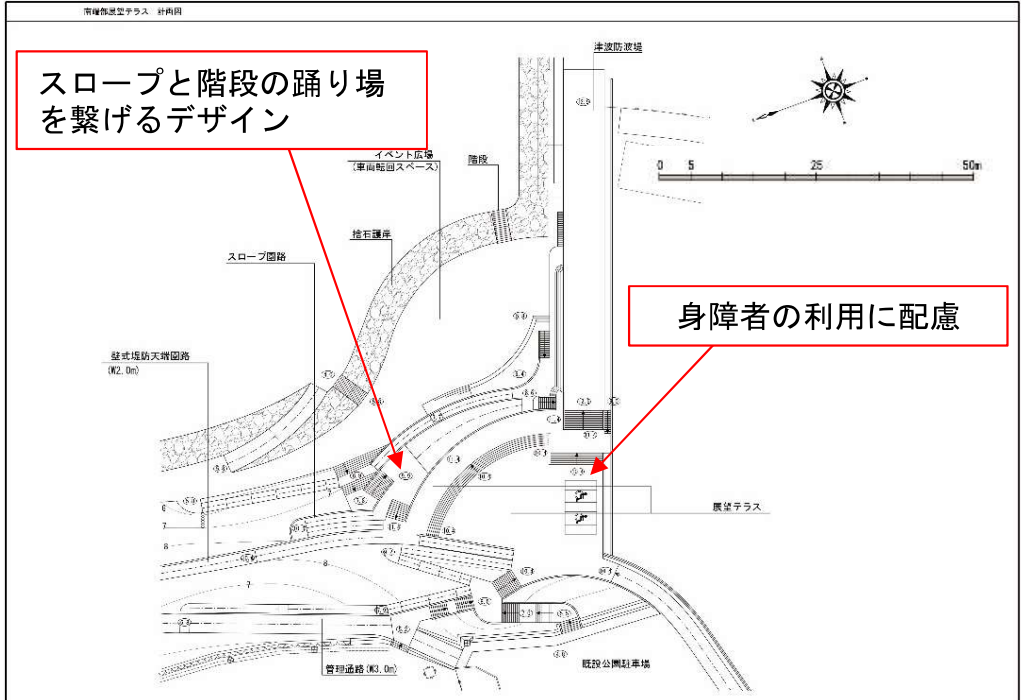
- ・身障者の利用に配慮し、堤体上部に身障者用駐車場を確保する。
- ・津波防波堤、壁式堤防との接続を踏まえたデザインとする。
- ・階段とスロープの踊り場を繋げるデザインとする。



南端部展望テラス



検討箇所（拠点施設）



デザイン（案）平面図

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(①拠点施設)

1. 拠点施設

②中央展望台

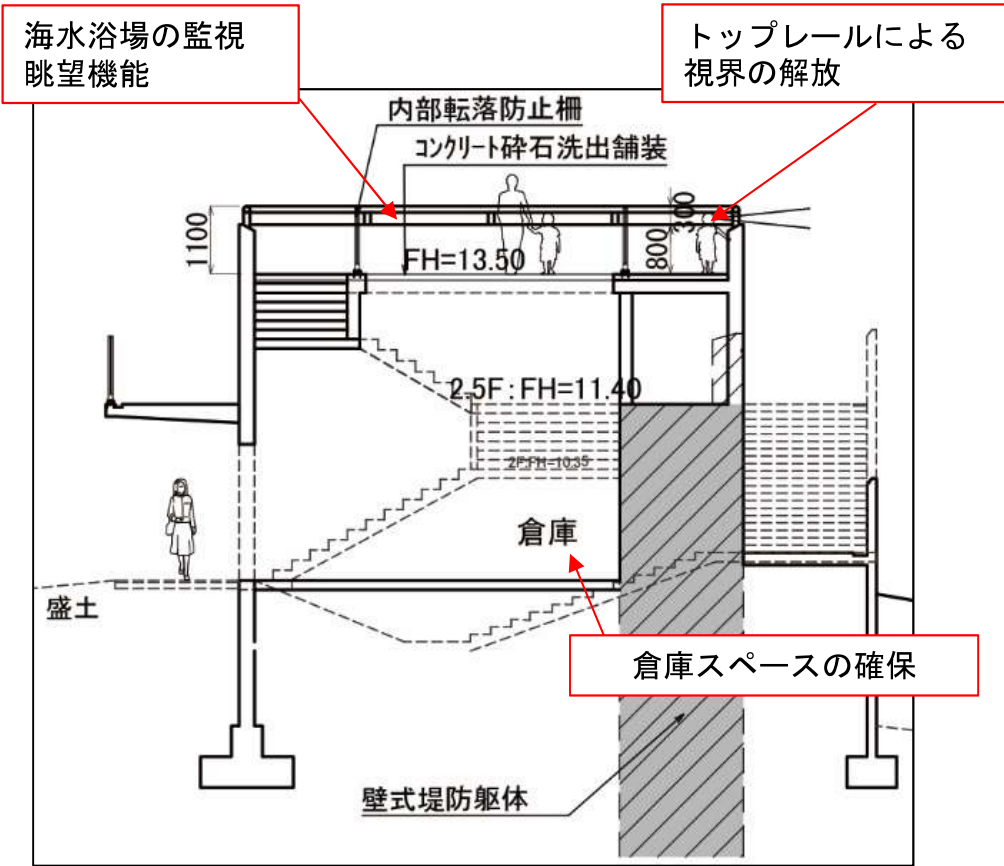
中央展望台について、両側の壁式堤防の構造を踏まえ、下図のとおりデザインを検討した。

<検討の条件・考え方>

- ・海水浴場の監視機能を中央展望台に移転させると同時に、現状の展望機能及び倉庫スペースの確保を図る。
- ・長大な壁面の分断点となることで、圧迫感の軽減を図る。
- ・壁式堤防上は、松で一部眺望が阻害されることから中央展望台では公園全体を見渡せるよう視界の開放を図る。



中央展望台



デザイン(案)断面図

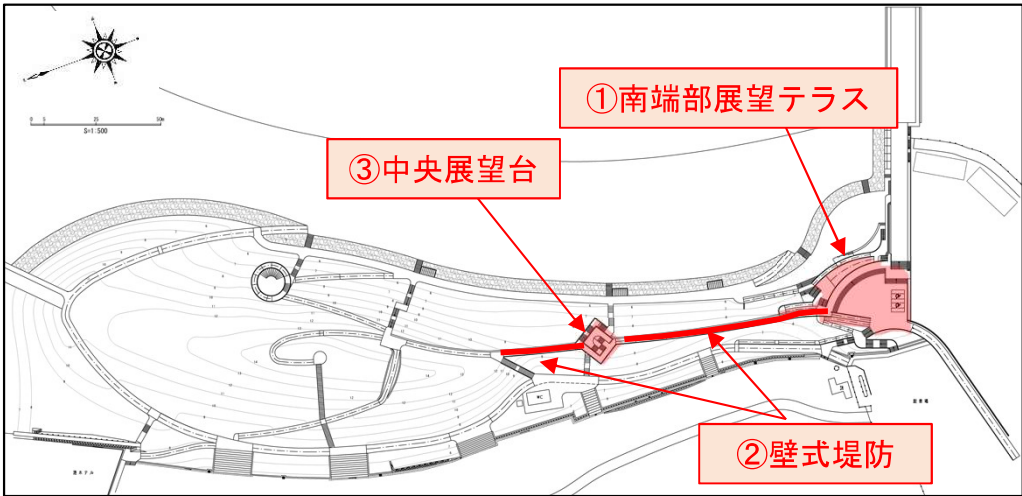
3-2. 施設のデザイン及び配置検討(②壁面デザイン)

2. 壁面のデザイン

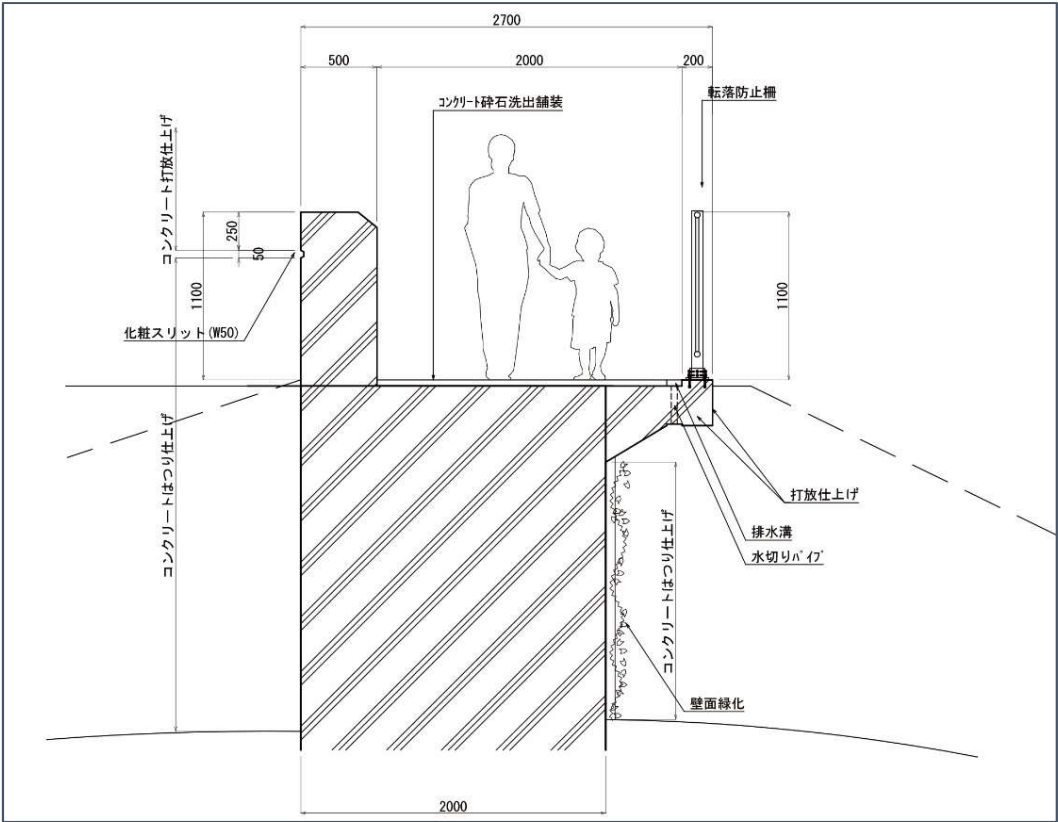
2.1 対象施設及び検討条件

検討に先立ち、壁面仕上げを行うエリアについて下図の①～③エリアを設定しデザインを検討した。

上記3エリアにおける壁面デザインの検討条件等は下表のとおりである。



検討箇所（壁面デザイン）



壁式堤防の標準断面（案）

<検討の条件・考え方>

①南端部テラス

- ・当施設の玄関部であることを踏まえ、隣接する津波防波堤と表面仕上げの差異による変化付けを図る。

②壁式堤防

- ・堤防と自然景観の融和を図ることを目的とし、構造物が与える圧迫感や人工的印象の低減を図る。

③中央展望台

- ・壁式堤防の立壁と連続して接続することを踏まえ、表面仕上げの差異により堤防壁面意匠との変化付けを図る。

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(②壁面デザイン)

2. 壁面デザイン

2.2 壁面仕上げの比較検討

拠点施設及び壁式堤防における壁面仕上げは、長大なコンクリート壁による圧迫感を軽減かつ単調な見え方とならないことを目的に下表のとおり各壁面仕上げの候補について比較検討を行い推奨案を選定した。

	コンクリートはつり 仕上げ(A案)	コンクリート打ち放し (B案)	化粧材貼付(C案)	スリット(D案)	着色コンクリート案 (E案)
整備イメージ (事例写真)	 出展:(株)まぎし建築設計事務所 HP	 出展:産経ニュース HP	 出展:現地撮影写真	 出展:土木学会景観デザイン委員会HP	 出展:ランクセス社 HP
景観面	○シンプルで軽快感あり ○コンクリート仕上げの中 でも変化付けが可能	○硬質で力強い印象 △一方で無機的な印象を 与える場合あり	○現況使用されており自 然景観に調和しやすい ○景観に応じた色調選定 が可能	○B案での単調さがスリッ トで多少軽減される	△セメントの色が一定しな い ×経年変化で色あせを生 じる
維持管理面	○基本的にメンテナンス フリー	○基本的にメンテナンス フリー	×タイル材は破損等の維 持管理負担が発生	○基本的にメンテナンス フリー	○基本的にメンテナンスフ リー
施工面	○施工性・工程的に容易 △打設後に仕上げが必要	○施工性・工程的に容易 △型枠の割り付けが必要	×他案に比べ施工性に 劣る	△B案にスリット型枠工 程が入る	△目標色には配合が必要 △製作に約1ヶ月が必要
コスト	○	○	×	△	×

今回提案(①②エリア) 今回提案(③エリア)

C案は現況施設にて一部使用されているが、コスト面及び維持管理面でA案、B案より劣るため今回は使用しないことを提案。

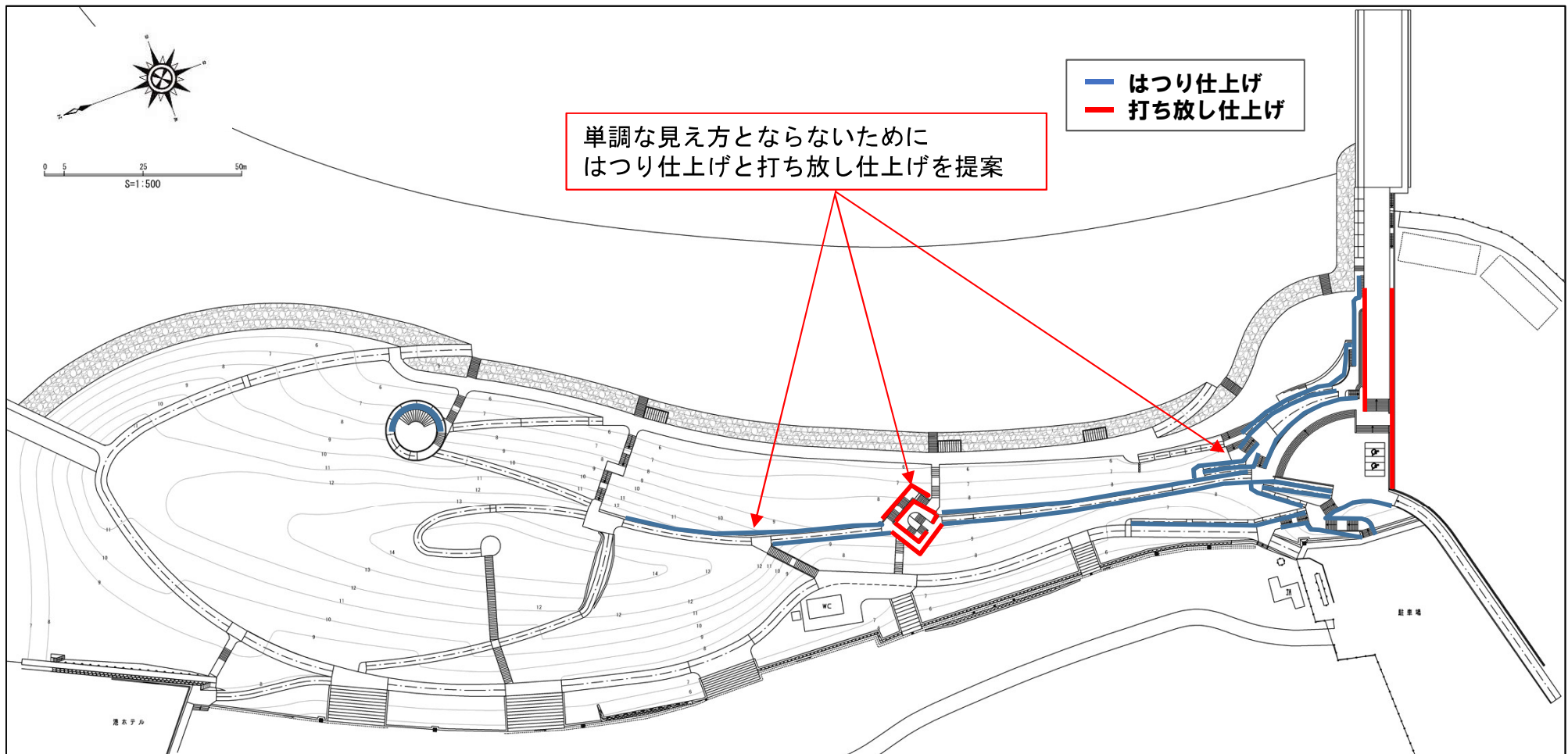
3-2. 施設のデザイン及び配置検討(②壁面デザイン)

2. 壁面のデザイン

2.3 推奨案

以上の内容をふまえ、拠点施設及び壁式堤防における壁面デザイン（案）を平面図上にて整理した。

拠点施設及び壁式堤防における壁面仕上げは、長大なコンクリート壁による圧迫感を軽減かつ単調な見え方としないことを目的に下表のとおり各壁面仕上げの候補について推奨案を選定した。

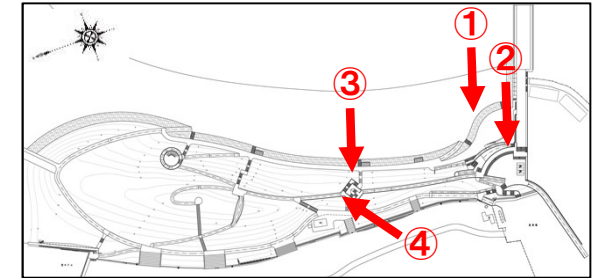


3-2. 施設のデザイン及び配置検討(②壁面デザイン)

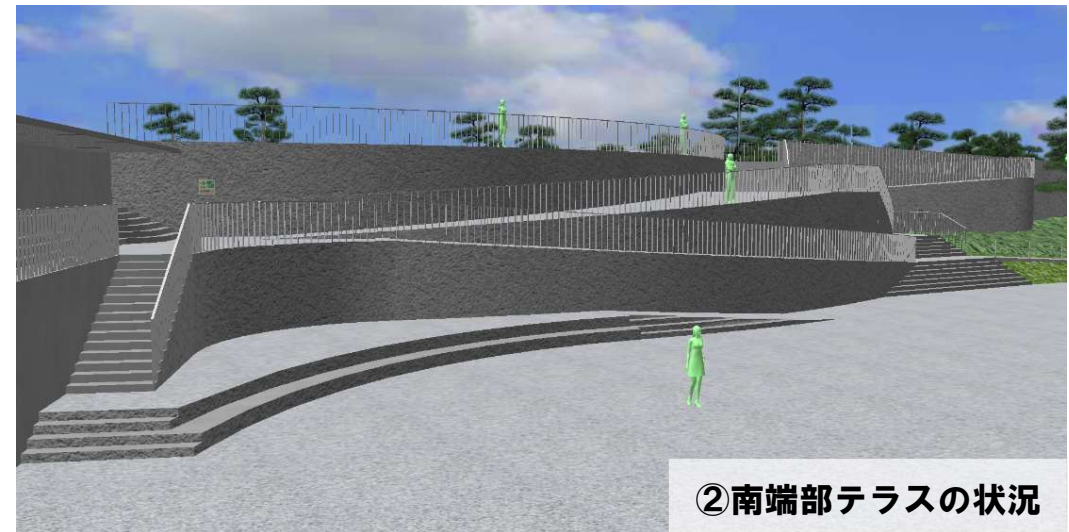
2. 壁面のデザイン

2.4 VRでの確認

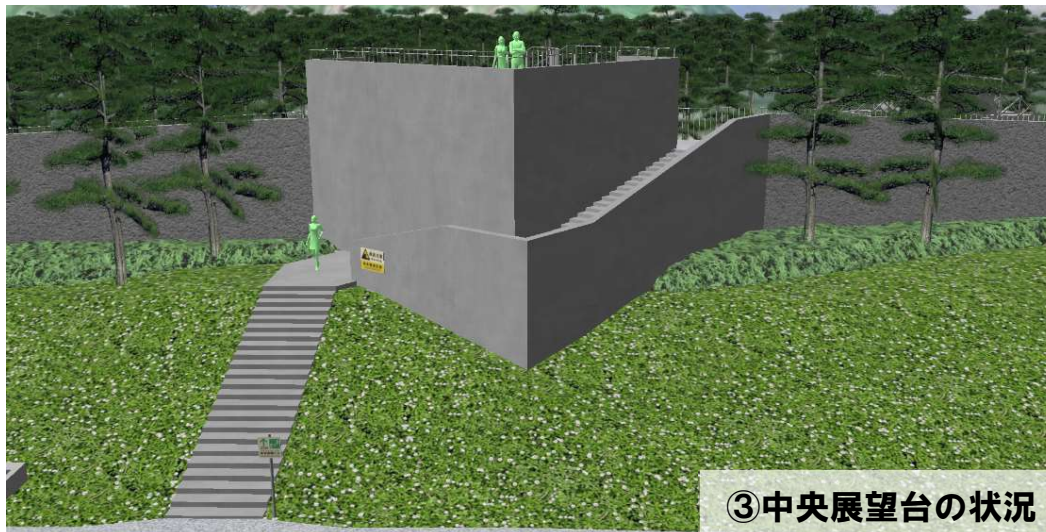
拠点施設及び壁式堤防の壁面デザインについて、背後地を含む全体として自然景観の調和が図られているかVRでイメージを確認した。



①海側からの状況



②南端部テラスの状況



③中央展望台の状況



④壁式堤防（陸側）の状況

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(③園路舗装)

3. 園路舗装

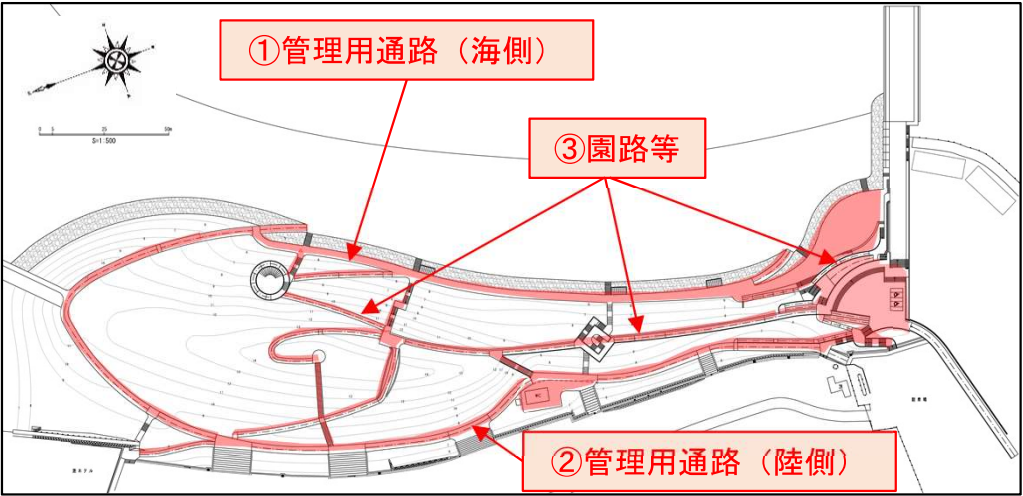
3.1 対象施設及び検討条件

検討に先立ち、園路舗装を行うエリアについて、右図の①～③エリアを設定しデザインを検討した。

園路の規格は、第4回検討会にて決定された階段・スロープの幅員を踏まえ設定する。

上記3エリアにおける園路舗装の検討条件等は下表のとおりである。

<検討の条件・考え方>	
①管理用通路（海側）	・海側は、 <u>石積み護岸との調和を考慮した自然でシンプルな舗装とする。</u>
②管理用通路（陸側）	・陸側は、 <u>既存のILB舗装との接続を目的とした舗装とする。</u>
③園路等	・歩きやすさや滑りにくさなど利用面を考慮した舗装とする。



検討箇所（園路舗装）



園路（イメージ）

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(③園路舗装)

3. 園路舗装

3.2 園路舗装の比較検討

園路舗装は、海岸沿いの環境を踏まえた上で、利用・維持管理を目的とし、①周辺環境や構造物と一体的に、②極力目立たないよう、③構造物への収まりにも配慮した比較案を検討し、景観・維持管理・施工・コストの各観点から評価を行った。

	コンクリート洗出舗装 (A案)	景観性アスファルト 系舗装(B案)	各種ブロック系舗装 (C案)	遮熱性舗装(D案)	着色コンクリート (E案)
整備イメージ (事例写真)	 出展:メーカー((株)佐藤渡辺)カタログ内画像	 出展:メーカー(大有建設(株))カタログ内画像	 出展:メーカー(帝王)カタログ内画像	 出展:テック・アイ技術情報研究所 HP	 出展:(株)尾関 HP
景観面	○骨材の自然な色調が出る	○周辺景観に応じた選択が可能	○周辺景観に応じた選択が可能	△他案に比べ自然景観になじみにくい	△セメントの色が一定しない
利用面・特徴	○利用上大きな問題なし	○利用上大きな問題なし	△他案に比べ通行性に劣る	○通常アスファルトに比べ遮熱性に優れる。	×経年変化で色あせを生じる
維持管理面	○基本的にメンテナンスフリー	○部分補修が容易	△目地部への雑草類の進入が懸念される ○部分的補修が容易	○部分補修が容易	△目地部は定期的補修必要
施工面	○施工性・工程的に容易 △打設後に仕上げが必要	○施工性・工程的に容易	○施工性・工程的に容易	○施工性・工程的に容易 △遮熱材料の吹付け配合が必要	△目標色には配合が必要 △製作に約1ヶ月が必要
コスト	○	△	○	△	×

今回提案(①エリア)

今回提案(②③エリア)

3. 園路鋪裝

以上の内容をふまえ、園路舗装のデザイン（案）を平面図上で整理した。

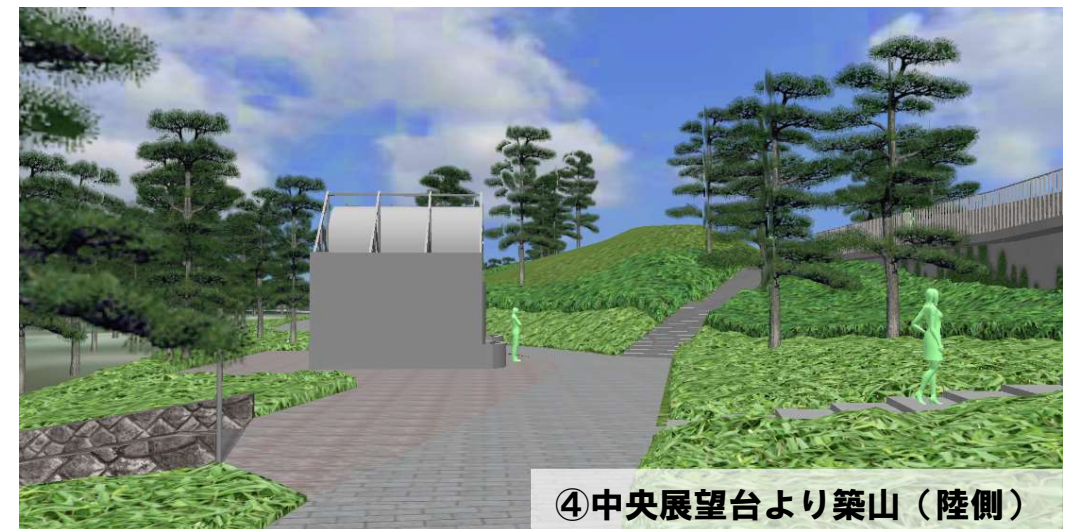
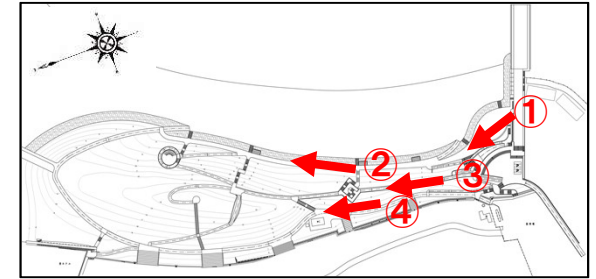


3-2. 施設のデザイン及び配置検討(③園路舗装)

3. 園路舗装

3.4 VRでの確認

園路舗装について、背後地を含む全体として自然景観の調和を図られているかVRでイメージを確認した。



3-2. 施設のデザイン及び配置検討(④手摺り)

4. 手摺り

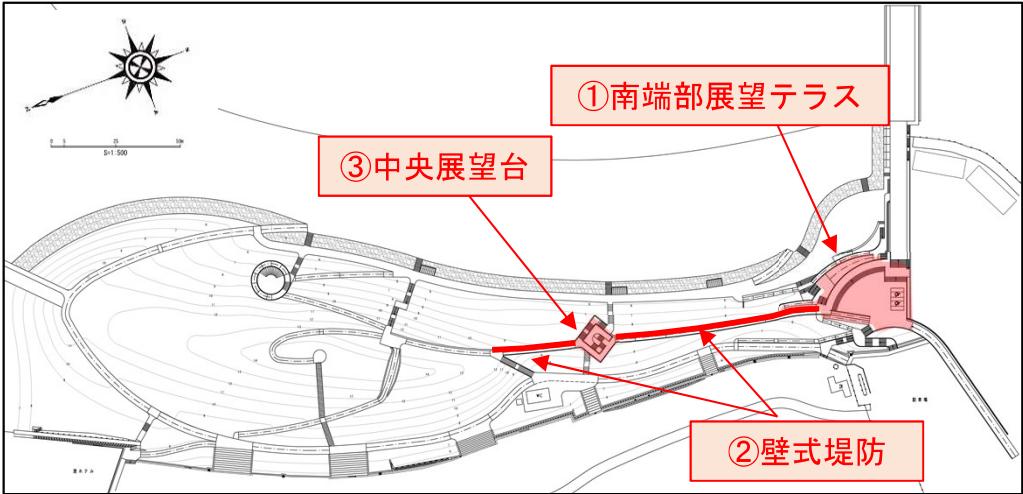
4.1 対象施設及び検討条件

右図に示す①～③の施設について、以下の条件より手摺りのデザインを検討した。

<検討の条件・考え方>

・自然景観への調和を図る。

・各施設同様の主構造材・色彩を使用し統一感を表現。



検討箇所（手摺り）

鋼材	アルミ製 (A案)	ステンレス製 (B案)	鋳物製 (C案)	鋼製 (D案)
整備イメージ (事例写真)				
景観面	○シンプルで軽快感が出せる	○コンクリート構造物との意匠的親密性が高い。	△重厚感のあるイメージが強い	○多様な表情が出せる
維持管理面	○耐潮性、耐候性は高く維持管理は容易	○耐潮性、耐候性は高く維持管理は容易	○基本的に鋳物部はメンテナンスフリー。	○高度耐候性処理材は基本的にメンテナンスフリー
施工面	○軽量で施工性は良い	△重量がありA案より施工性は劣る	△重量がありA案より施工性は劣る	△重量がありA案より施工性は劣る
コスト	○	△	×	△

今回提案(①②③エリア)

色彩	ダークブラウン〔こげ茶〕	ライトグレー〔明灰色〕	ダークグレー〔濃灰色〕
景観面	・明度が最も低く落ち着いた印象となる	・明度が最も高く明るい印象となる	・明度が低く落ち着いた印象となる
維持管理面	・汚れが目立ちやすい。	・汚れが目立ちにくい。	・汚れが目立ちやすい。

今回提案(①②③エリア)

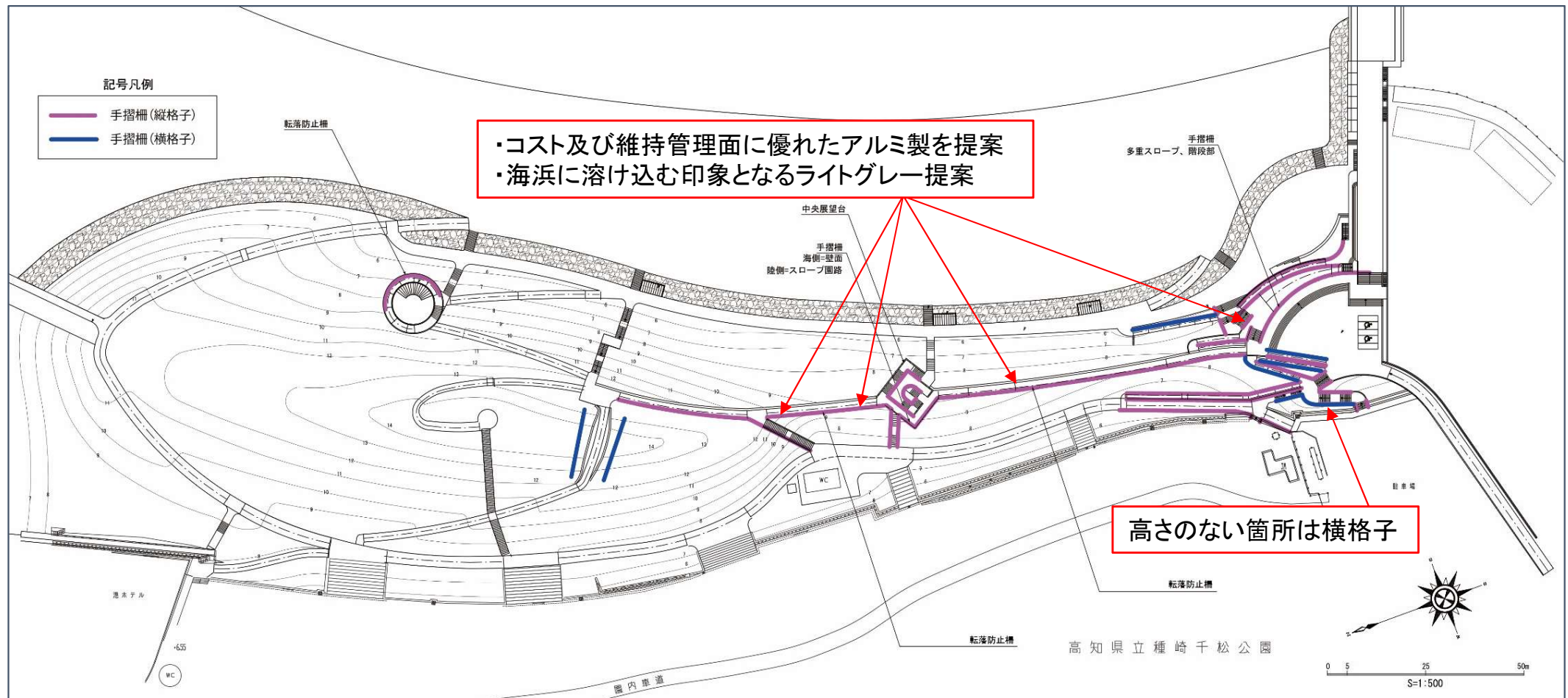
3-2. 施設のデザイン及び配置検討(④手摺り)

4. 手摺り

4.3 推奨案

以上の内容をふまえ、手摺りのデザイン(案)を平面図上で整理した。

形状については、柵のよじ登り防止を考慮した縦格子形状で統一することを提案。(一部横格子形状)

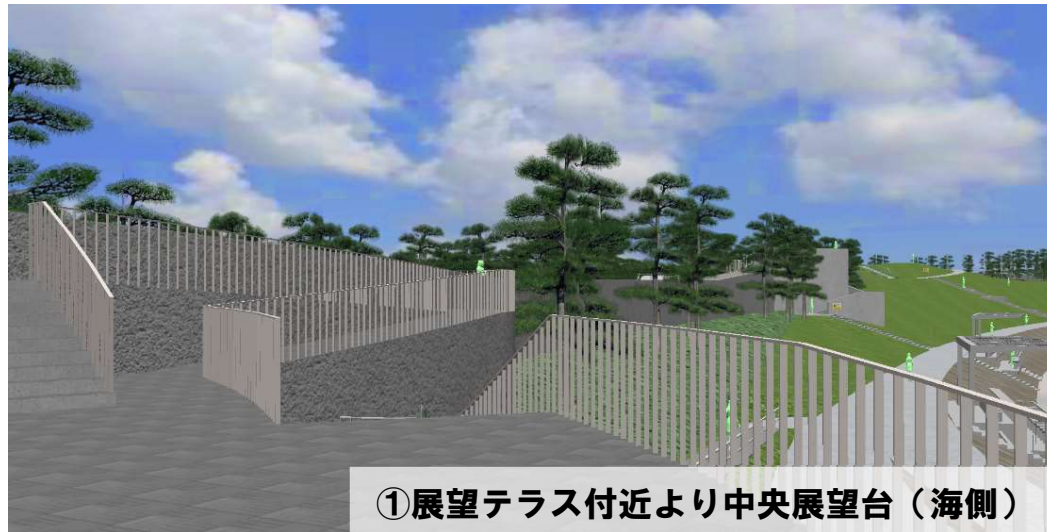
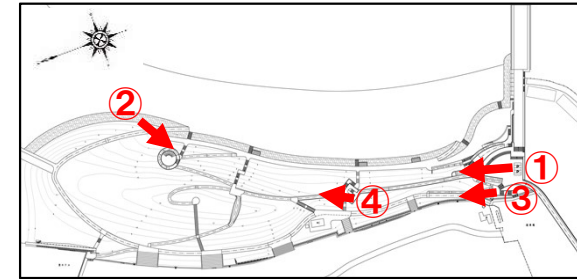


3-2. 施設のデザイン及び配置検討(④手摺り)

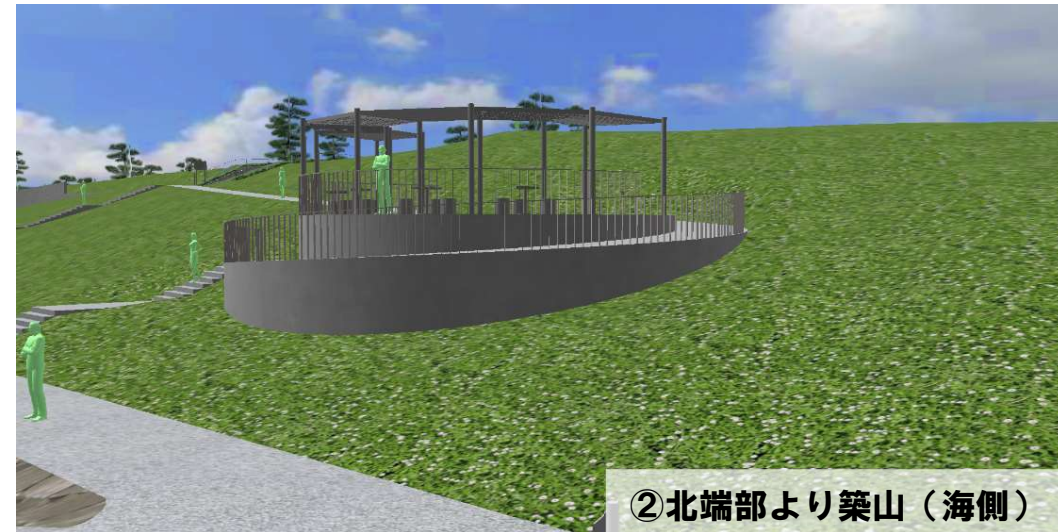
4. 手摺り

4.4 VRでの確認

手摺りについて、背後地を含む全体として自然景観の調和を図られているかVRでイメージを確認した。



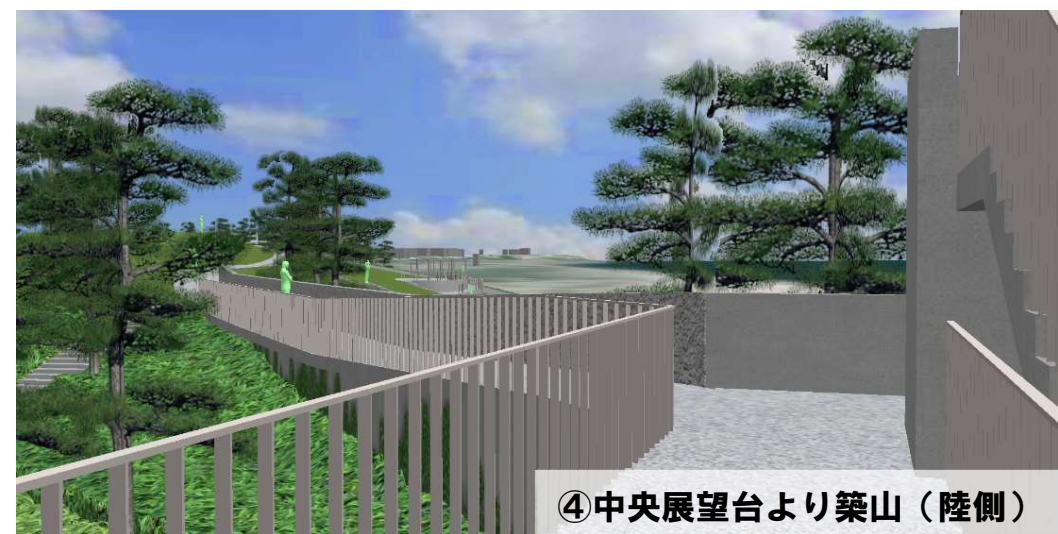
①展望テラス付近より中央展望台（海側）



②北端部より築山（海側）



③展望テラス付近より中央展望台（陸側）



④中央展望台より築山（陸側）

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑤植栽)

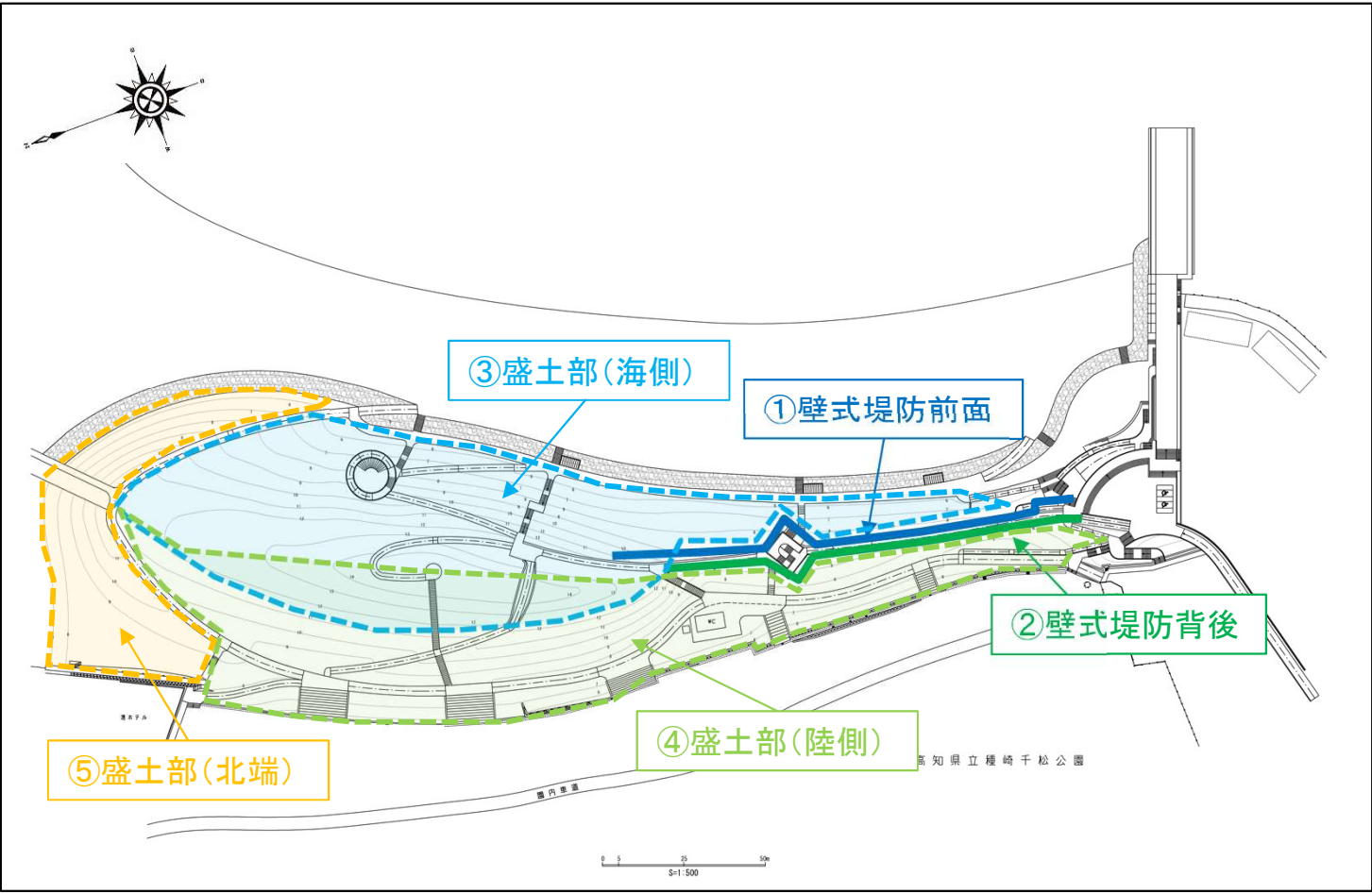
5. 植栽

5.1 植栽エリアと検討条件

検討に先立ち、植栽を行うエリアについて、右図の①～⑤エリアを設定しデザインを検討した。

上記5エリアにおける植栽の検討条件等は、下表のとおりである。

植栽エリア名	検討条件等
①壁式堤防前面	・耐候性、耐潮性樹種 ・圧迫感の軽減 ・よじ登り、落書き防止
②壁式堤防背後	・圧迫感の軽減 ・よじ登り、落書き防止
③盛土部(海側)	・耐候性、耐潮性樹種 ・粗放管理樹種 ・開放感の演出
④盛土部(陸側)	・千松公園との連続性 ・歩行空間の確保(進入防止)
⑤盛土部(北端)	・耐候性、耐潮性樹種 ・圧迫感の軽減 ・民地との緩衝機能



検討箇所（植栽）

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑤植栽)

5. 植栽

5.2 樹種の選定

樹種の選定は、植栽エリア毎の検討条件等を踏まえて、高木相～地被類、グランドカバーまで下表のとおり各相別の候補樹種を整理し提案した。

	高木相	中低木相	地被類A (地表面)	地被類B (壁面)	グランドカバー
推奨樹種の 植栽イメージ	・クロマツ など  出展: 現地撮影写真真画像	・ハマヒサカキなど  出展: 花と緑の図鑑 HP	・ハイビヤクシン など  出展: 自然植物図鑑 HP	・ヘデラ類 など  出展: 大日化成(株) HP	・コウライシバ  出展: 住友化学園芸 HP ・クラピア  出展: メーカー(林業笠原造園(株)トレド)HP
景観面	・千松公園との連続性が確保できる	・高木、低木類と組合せで変化が出せる ・視線遮蔽に有効	・平面的に広がり、人の進入を抑制する効果がある	・壁面緑化により圧迫感の軽減や緑被面の向上が可能	・現状と同様の張芝
維持管理面	・自然生育で樹高5～10m以上になる	・大きく成長しても高さ3m程度	・群植カバープラントで維持管理は容易	・樹種によっては登攀補助施設が必要	・現状の草刈り頻度では草地化する状況にある
コスト	○	○	○	○	○
採用樹種	・クロマツ	・造園的で視線遮蔽につながることから採用しない。	・ハイビヤクシン ・オカメザサ ・オロシマチク	・ヘデラ類(陸側の壁下面に採用)	・クラピア

今回提案(①②④⑤エリア)

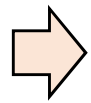
今回提案(①④⑤エリア) 今回提案(②エリア)

今回提案(①③エリア)

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑤植栽)

5.3 植栽の経時的变化

植栽直後

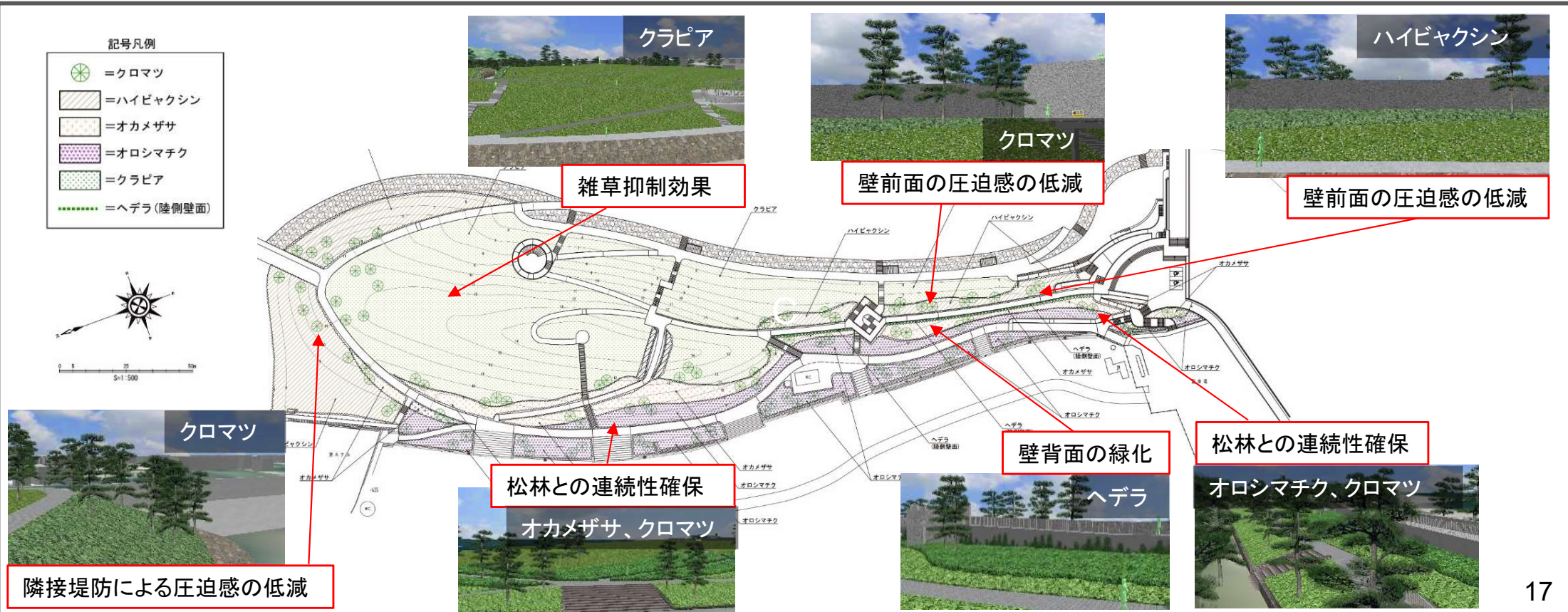


植栽30年後



5.4 推奨案

各植栽エリアにおける樹種（案）の選定理由を、以下のとおり整理した。



3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑥盛土造成)

6. 盛土造成

6.1 盛土エリアと検討条件

検討に先立ち、盛土造成を行うエリアについて、右図の①、②エリアを設定しデザインを検討した。盛土造成における検討条件等は、下記のとおりである。

<検討の条件・考え方>

- ・盛土勾配は1:3を標準とする。
- ・法尻、法肩での勾配変化（緩勾配化）を行う。
- ・法面高を変化させて、立面的なアンジュレーションをつける。
- ・壁式堤防の圧迫感の低減を図る。



検討箇所（盛土造成）

6.2 VRでの確認

以上の内容を整理し、推奨（案）についてVRで確認する。



盛土造成（①壁式堤防区間イメージ）



盛土造成（②盛土式堤防区間イメージ）

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑥盛土造成)

6. 盛土造成

6.3 切り通し部擁壁の意匠検討

切り通し部は拠点施設と同様、景観要素であることから特徴的な擁壁形態として、コンクリート化粧擁壁（A案）、練り石積み（B案）を比較検討した。

切り通し部擁壁は、第4回検討会での高知県産材の活用等意見を踏まえ高知産石灰岩の練り石積みとする。

また切り通し部にて転落防止対策を目的とした、ポイント的な植栽（ハイバクシン）の配植を提案する。

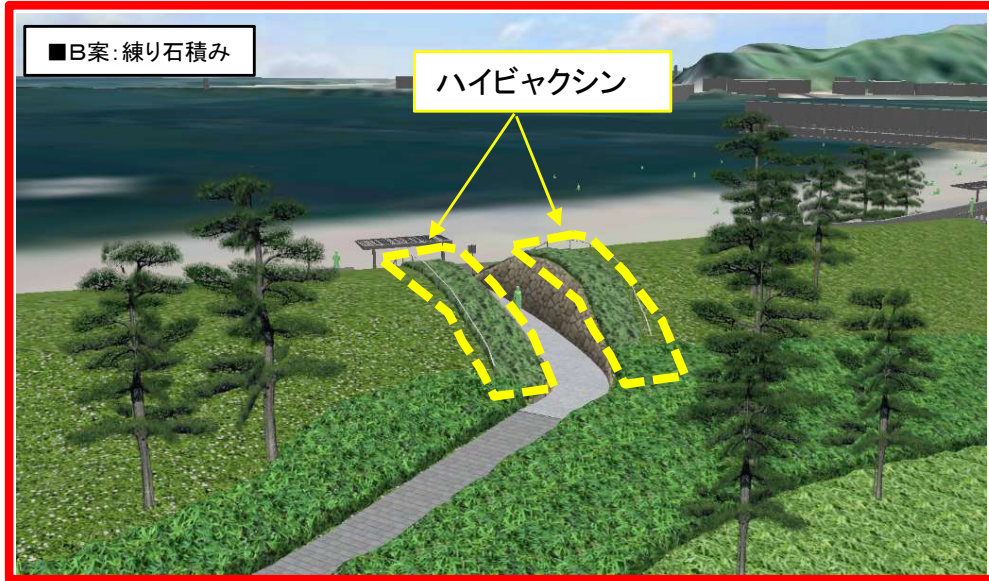
	コンクリート化粧擁壁 (A案)	練り石積み (B案)
整備イメージ (事例写真)	 出展: メーカー(住理工商事株式会社) カタログ内画像	 高知産石灰岩 (県警本部) 出展: ゴーグルマップストリートビュー画像
景観面	△人工的なイメージが強い	○自然的
維持管理面	○基本的にメンテナンスフリー	○A案と大きな差はない
コスト	○	△

今回提案

景観面に優れる練り石積み（高知県産石灰岩）を提案。

6.4 VRでの確認

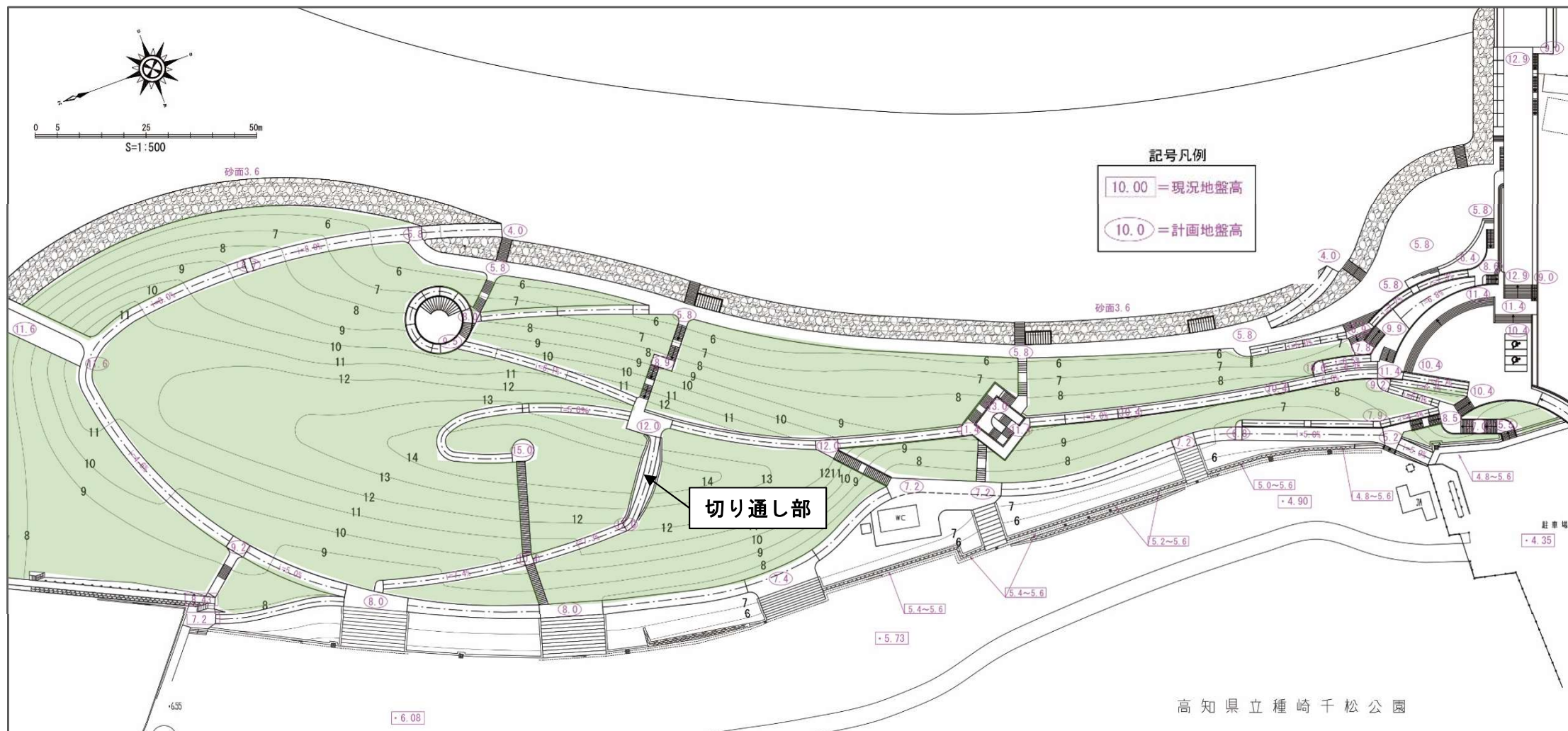
切り通し部のデザインについて、背後地を含む全体として自然景観の調和を図られているかVRでイメージを確認した。



3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑥盛土造成)

6.5 推獎案

以上の内容をふまえ、盛土造成（案）を平面図上で整理した。



3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑦捨石護岸)

7. 捨石護岸

7.1 捨石護岸と検討条件の整理

第4回検討会で決まった条件を整理し、捨石護岸の形態について一般護岸形態（A案）と景観配慮型間詰形態（B案）を比較検討し、景観・利用・維持管理・コストの各観点から評価を行った。検討の結果、B案の断面で形状を検討することとした。

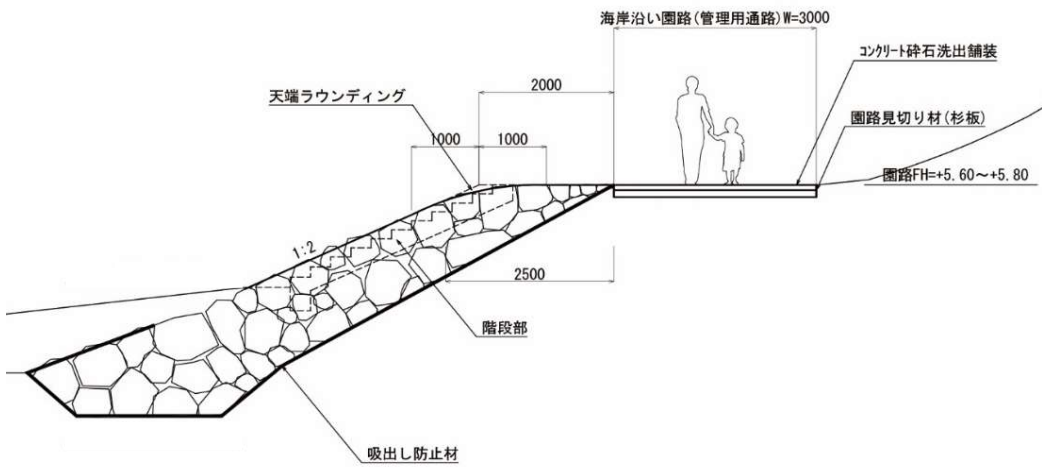
	一般護岸形態 (A案)	景観配慮型間詰形態 (B案)
整備イメージ (事例写真)	 出展: 自然植物図鑑 HP	 出展: 自然植物図鑑 HP
景観面	△角石の整形組はやや人工的	○ラウンディング形態は景観的にやわらかく自然 △間詰めは深目地にしても人工的に見えてしまう
利用面	△護岸上の人移動が困難	○護岸上の移動がしやすい
維持管理面	△捨石間の清掃管理が必要	○A案に比べ容易
コスト	○	△

今回提案

7.2 断面形状の検討

断面形状は、親水性・安全性・維持管理面（ゴミ）に配慮した間詰部の処理を検討した。断面形状のデザインのポイントは下記のとおりである。

- ・護岸幅のうち、園路側上部は園路方向の移動も可能な2.0mの通行可能幅を確保する。（四阿設置幅も確保）
- ・護岸上部は、必要な重量の石材でラウンディングさせる。
- ・護岸下部は一般的な捨石護岸組とする。
→上部のなめらかなラインと下部割石の景観的コントラストを創出する。
- ・使用石材は、産地を揃えるなどして色彩を統一する。
- ・可能な限り、間詰が目立たないようにに配慮する。



提案断面（イメージ）

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑧照明)

8. 照明

8.1 検討条件

照明は配置・形態によって維持管理、コスト面にも影響が大きく配置検討が重要となる。

照明における検討条件等は、下記のとおりである。

＜検討の条件・考え方＞

- ・夜間における園路歩行時の安全確保を優先する。
- ・計画地の夜の景観(月・星明り等)を意識した照度を確保する。
- ・維持管理、コストの軽減化を図る
- ・維持管理面を考慮し、ソーラー系は採用しない。



昼間



夜間

現状の照明施設(ポールライト型)

8.2 照明施設の比較検討

照明タイプによって設置箇所および基数等が異なるため、地表型(A案)と上空型(B案)を整理し比較検討を実施。

	地表型(A案)			上空型(B案)
	ポラード型(大)	ポラード型(小)	壁面・路面埋込型	ポールライト型
整備イメージ (事例写真)	 出展: 家山真建築研究室 HP	 出展: 岩崎電気(株) HP	 出展: 家山真建築研究室 HP	 出展: 株)YAMAGIWA HP
特徴	・誘導的配置ができる ・通行路の照度確保と庭園的演出が可能 ・上方への照射が少ない	・誘導的配置ができる ・通行路の照度確保と庭園的演出が可能 ・上方への照射が少ない	・設置スペースが不要 ・連続的、誘導的配置が可能 ・階段部に適している ・柵部への内蔵等も検討可能	・一般的な公園照明 ・均一で所定の照度を確保可能 ・上方が明るく地表面が暗く感じる
維持管理面	・一般的管理(定期的塗装、ランプ交換等)	・一般的管理(定期的塗装、ランプ交換等)	・一般的管理(定期的塗装、ランプ交換等)	・一般的管理(高所作業必要)
コスト	○			×

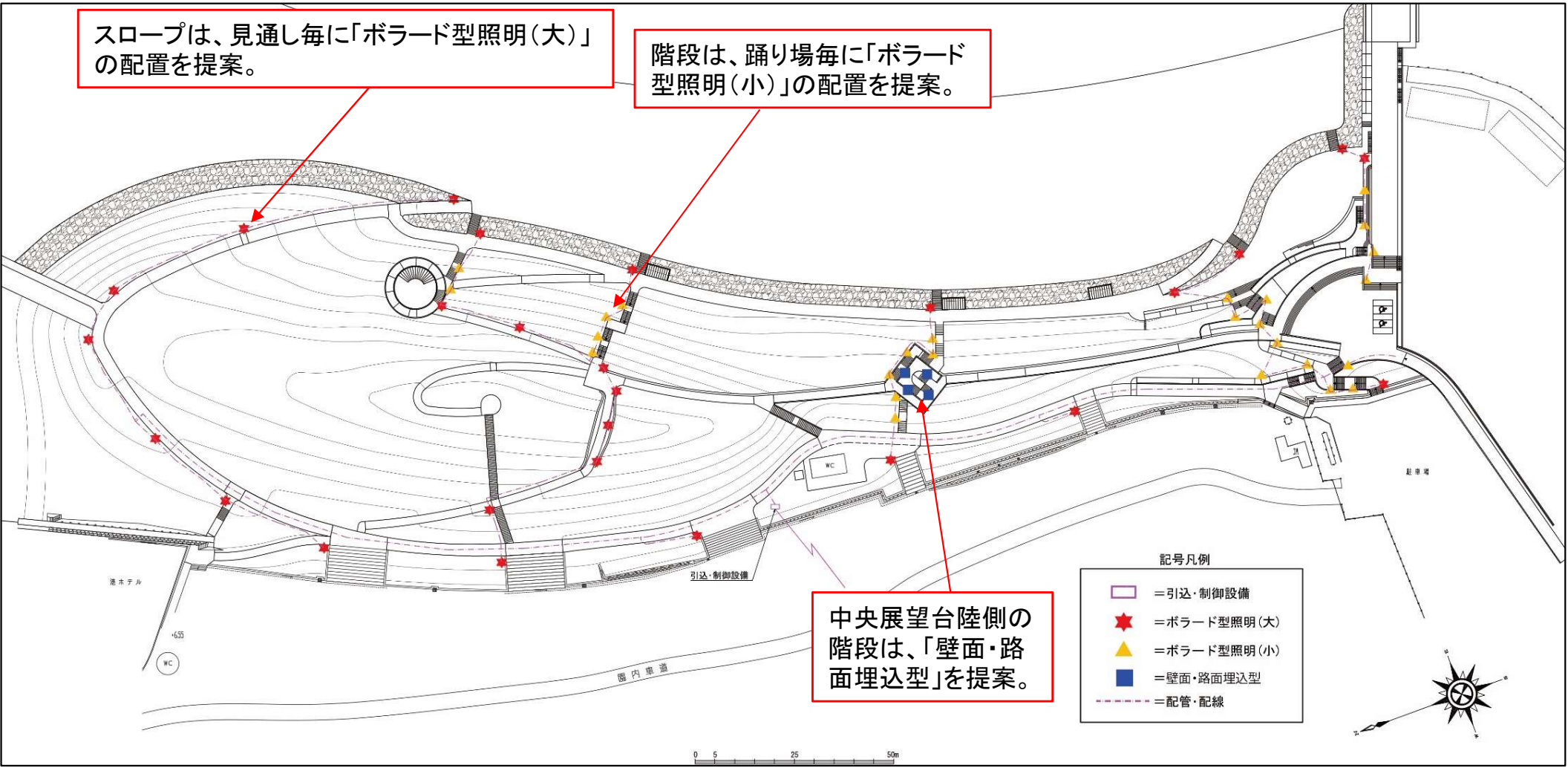
今回提案

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑧照明)

8.3 推奨案

- ・ **ボラード型照明(大)** : スロープなど設置箇所が十分に確保できる場所に設置。
- ・ **ボラード型照明(小)** : 階段や踊り場など、設置箇所が十分に確保できず、より安全性の確保が必要な場所に設置。
- ・ **壁面・埋込型** : 中央展望台内側の階段に設置。

以上を内容をまとめ、照明の配置(案)を平面図として整理した。



3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑨避難誘導サイン)

9. 避難誘導サイン

9.1 検討条件

避難誘導サインの検討においては、避難動線上に配置するとともに、津波危険地域であることや第5回検討会での意見を踏まえ、築山が津波に対する避難場所でないことなど、津波に対する注意喚起を実施する必要がある。

9.2 標識のデザイン検討

①各標識の検討

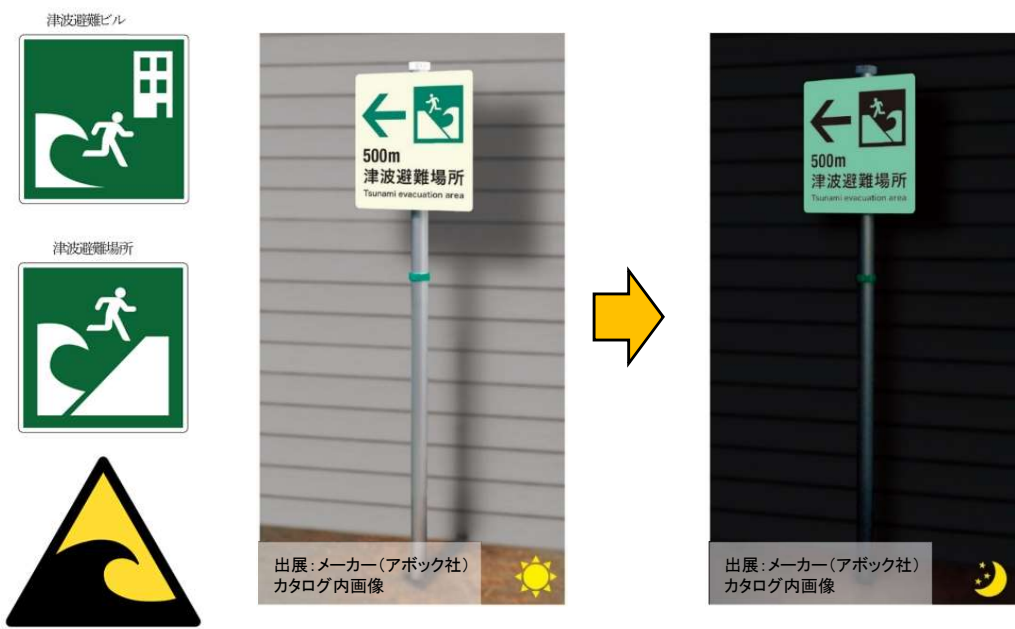
- ・日本産業規格（JIS）の「津波避難誘導システム」に基づき「注意・情報標識」と「避難誘導標識」を対象とした。
- ・無秩序に様々な標識が現れない様に「自立・壁面型」を使用する。
- ・ポールなど金物の色について周辺施設（手摺りなど）と合わせることを推奨。

②表示内容のデザイン

標識表示内容のデザイン（図記号、色、字体等）については、JISの「津波避難誘導標識システム」でシステム化され、各種標識自体の製品化も進められていることから、これに基づき検討した。

③暗闇対策

災害が夜間に発生した場合の暗闇対策として、メンテナンス及びランニングコストフリーの「蓄光型防災標識」を提案した。



避難標識（イメージ）

出展: メーカー(積水樹脂他)カタログ内画像

蓄光型防災標識

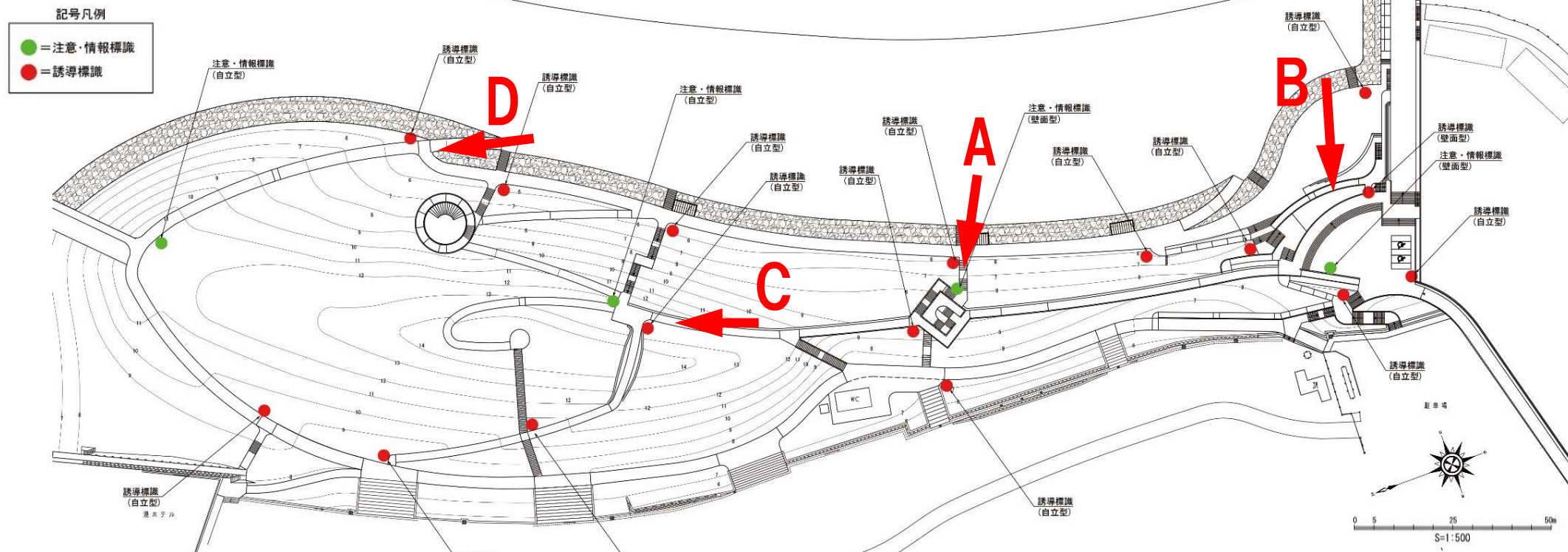
3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑨避難誘導サイン)

9.3 推獎案

以上の内容をふまえ、避難誘導サイン配置（案）を平面図上にて整理し、VRで見え方を確認した。

配置位置は参考であり、今後調整が必要。

また避難誘導サインと照明（ボラード型）の配置関係についても、今後検討が必要である。



3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑨避難誘導サイン)

9. 4 液状化を踏まえた避難ビルまでの避難時間

・ 最長避難距離

堤防背後（千松公園内園路）から津波避難ビルまでの最長距離（種崎地区津波避難センター）：570m

・ 歩行速度

通常時の歩行速度：「高知市津波避難計画」（平成27年10月、高知市）：0.6m/s

液状化時の歩行速度：「広域避難計画における防災事業実施による避難所要時間変化測定（東京都）」：

液状化 P_L 値	$P_L > 15$	$P_L \leq 15$
速度低減率	0.65	1.00

・ 液状化危険度判定区分

PL値による液状化危険度判定区分：「東海地震に関する専門調査会」（平成15年12月、内閣府）：
 $PL > 15$ ：液状化の可能性が大
 $5 < PL \leq 15$ ：液状化の可能性が中

・ 堤防背後（千松公園内園路）から津波避難ビルまでの避難時間

区間1：210m／(0.6m/s×1.00) = 350s

区間2：360m／(0.6m/s×0.65) = 923s

合 計：1,273s = **21.2分**

9. 5 避難時間の検証

設定した条件下において、目標とする時間までに避難が可能であることが検証された。

・ 堤防背後までの避難

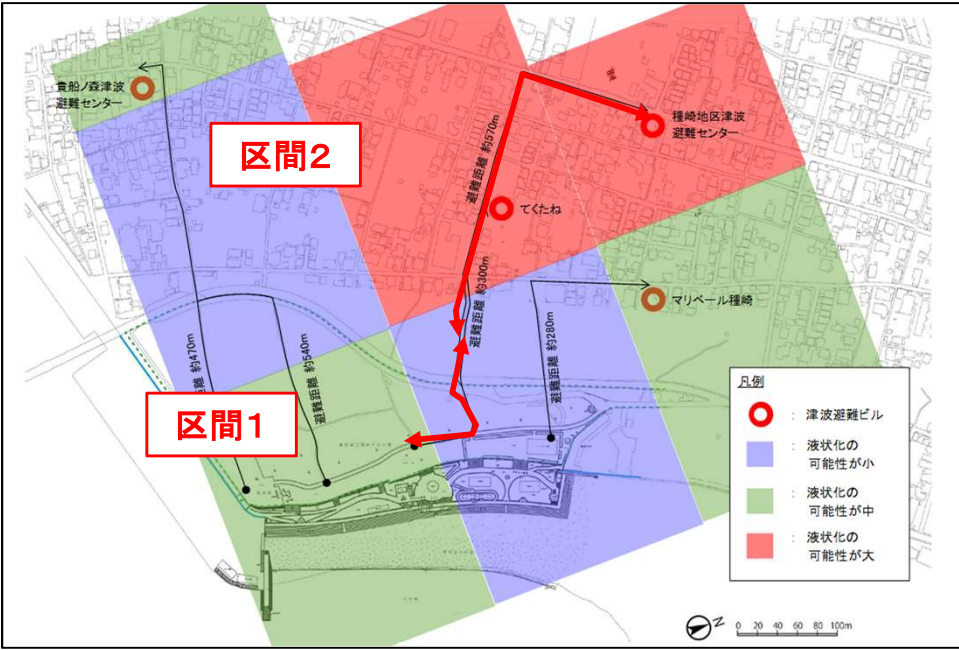
目標：津波到達時間までに全員が堤防背後まで避難すること

合計避難者数	避難行動開始時間	砂浜から堤防背後までの避難時間	合 計	津波到達時間	評 価
528人	10分	4.4分	14.4分	約25分	避難可能

・ 津波避難ビルまでの避難

目標：津波が堤防を越流する時間までに津波避難ビルまで避難すること

合計避難者数	避難行動開始時間	砂浜から堤防背後までの避難時間	堤防背後から津波避難ビルまでの避難時間	合 計	津波が堤防を越流する時間	評 価
528人	10分	4.4分	21.2分	35.6分	約40分	避難可能



避難路と液状化可能性予測の状況

出典：「高知市津波避難マップ」（平成27年3月、高知市）をもとに作成
液状化の可能性は「高知県／液状化可能性予測図」（平成24年度）をもとに作成

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑩その他施設)

10. その他施設

10.1 既存施設の整理

既存施設の状況は、下記のとおりである。

- ①四阿：2基（大型）
- ②展望台：1基（倉庫兼用）
- ③シェルター：1基（小型パラソル）
- ④ベンチ類：29基（円形、丸形など）
- ⑤水飲み類：4基（3分岐蛇口2基、1分岐蛇口2基）
- ⑥車止め：9基（石柱）

10.2 検討条件

その他施設は、全体的な景観上の大きな要素となりうる四阿（休憩施設）と、園路沿いや広場内などに配置されるベンチ類、水飲み・手洗い、車止め等その場のイメージ創出・演出要素となる小施設に区分できる。

- ①四阿
- ②小施設（ベンチ類、水飲み類、車止め）

その他施設における検討条件等は、下記のとおりである。

<検討の条件・考え方>

- ・本計画地の四阿は景観の中心的施設となるものではないため、周辺との調和及び眺望阻害となりにくい施設を検討する。
- ・小施設類は、周辺と調和し、統一した施設を検討する。



ベンチ



水飲み



四阿



車止め



展望台



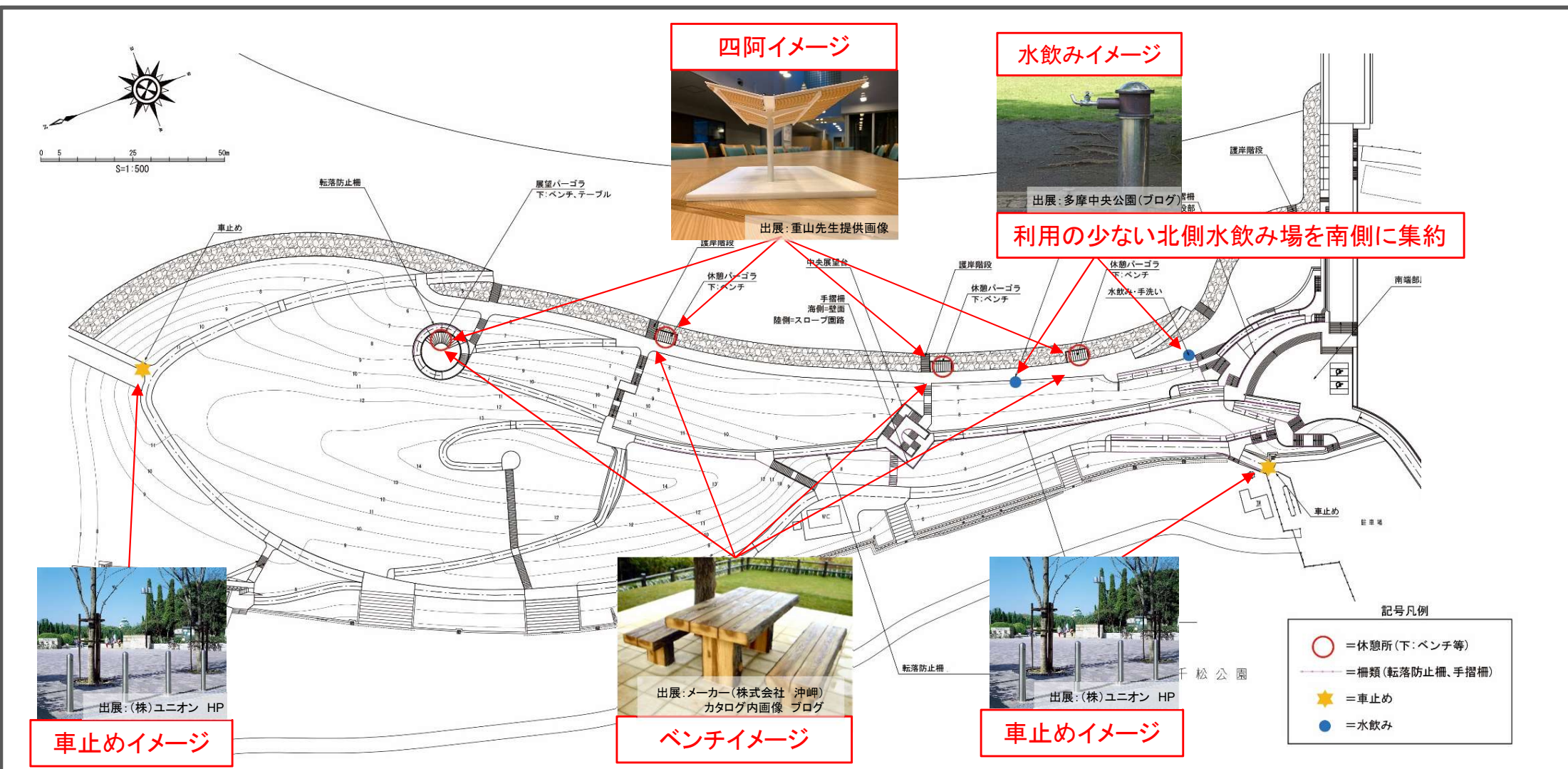
シェルター

現状の施設

3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑩その他施設)

10.2 配置検討

以上の内容をふまえ、その他施設の配置（案）を平面図上にて整理した。
水飲み・手洗いなどの施設は海水浴利用を想定し南側に、車止めは管理車両の出入口となる北端部と南端部に配置した。



3-2. 施設のデザイン及び配置検討(⑪雨水排水)

11. 雨水排水(参考)

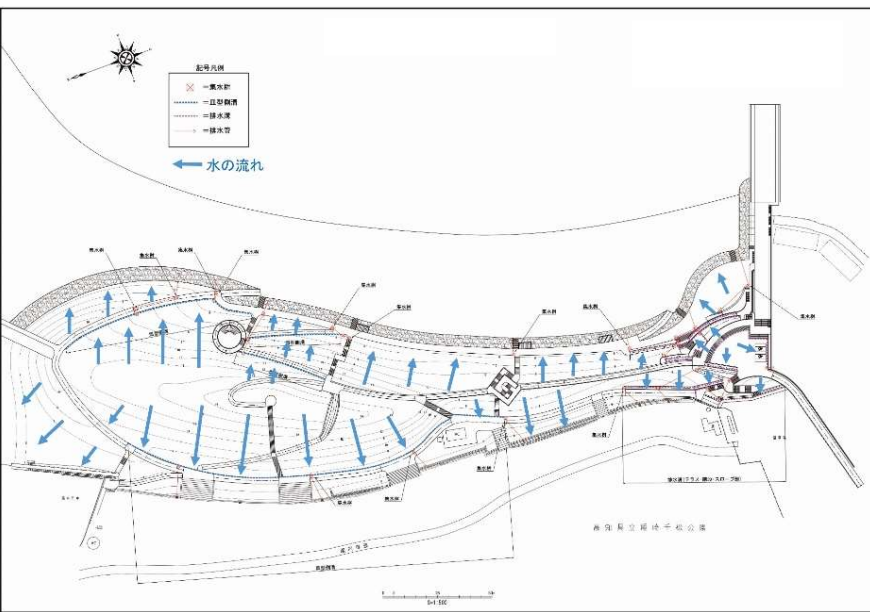
11.1 雨水排水の考え方の整理

今回の整備計画における雨水排水の考え方を、下記のとおり整理した。

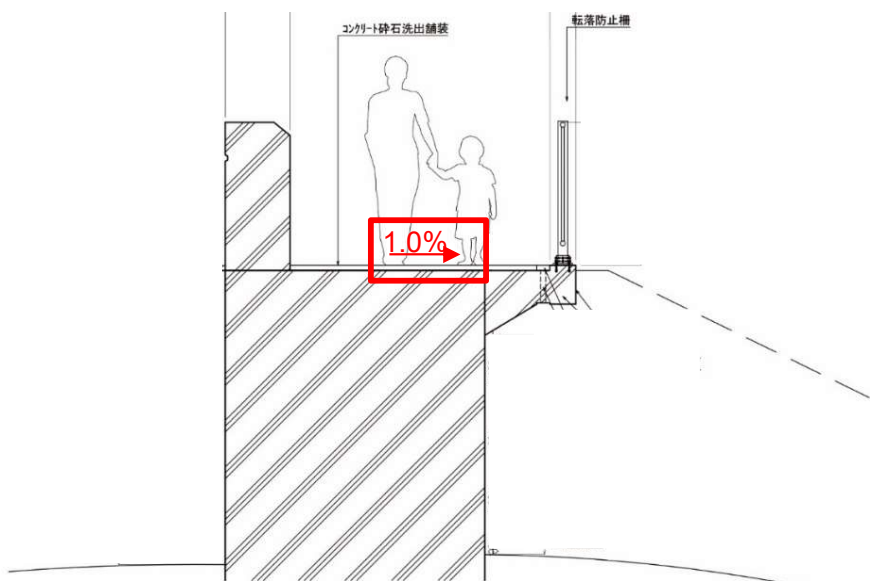
<検討の条件・考え方>

- ①現況同様、地形的制約から、海側と陸側に分けて排水する。
- ②壁式堤防は、園路の排水勾配を設け陸側に排水する。
- ③盛土部は、相応の勾配と流域面積を有することから、法尻に皿形側溝を設け排水する。

①海側と陸側に分けて排水する。



②壁式堤防は、園路の排水勾配を設け、陸側に排水する。



③盛土部は、法尻に皿形側溝を設け排水する。

